

開催に向けて



開催に向けて

◆前回大会カラマツ環境整備

平成26年10月19日(日)、前回大会(昭和39年)の開催地である茅野市八子ヶ峰で昭和天皇と香淳皇后がお手植えになられたカラマツ周辺の環境整備を地元の皆さんと行いました。



周辺整備



標柱設置



記念撮影

◆お手播き箱の製作

前回大会の招待者が植えたカラマツの間伐材と木曽ヒノキを使い、両陛下にお手播きを賜るお手播き箱を製作しました。



長野県林業総合センターで製材・乾燥



長野県上松技術専門校で製作

◆お手播き用の種子採取

長野県林業総合センターには、昭和39年の第15回全国植樹祭で昭和天皇にお手播きを賜ったカラマツが植えられています。このカラマツから採取した種子を、第67回全国植樹祭のお手播きに活用しました。



昭和天皇お手播きカラマツ



採取した球果

◆東日本大震災被災地へのエノキリレー

東日本大震災の被災地復興支援として福島県へ苗木を送るため、皇居内のエノキの種子を譲り受け、種から苗木を育てました。苗木は、第67回全国植樹祭で第68回大会開催県の富山県にリレーされ、1年間育てられた後、第69回大会が開催される福島県で植樹される予定です。



「平成26年度ふるさとの森づくり県民の集い」で知事が播種



発芽したエノキ



長野県林業総合センターで育苗

◆平成27年度ふるさとの森づくり県民の集い（第66回長野県植樹祭）
～第67回全国植樹祭1年前イベント～

平成27年5月30日（土）、大町市の鹿島槍スポーツヴィレッジにおいて開催し、雄大な鹿島槍ヶ岳を臨む会場で1,400人が2,800本の苗木を植栽しました。



会場



木製地球儀の県内リレー



植樹



植樹



知事記念植樹

◆200日前イベント「里山と海から森を想う」

平成27年11月18日（水）、長野市のホクト文化ホールにおいて開催しました。カウントダウンセレモニーのほか、哲学者の^{うちやま たかし}内山 節氏とNPO法人「森は海の恋人」理事長 ^{はたけやま しげあつ}畠山 重篤氏の対談が行われ、「日本海と太平洋の源流、日本の分水嶺を抱える長野県で開く全国植樹祭の意義」や、「私たちはどうすれば森や川や海と慕い合えるのか」など、219名の参加者は森と共に生きる2人の実践者の話に聴き入りました。



カウントダウンボードの除幕



対談

◆100日前イベント

平成28年2月26日（金）、JR長野駅善光寺口駅前広場で、開催まで100日に迫った全国植樹祭の成功を祈念して、真田勝関^{かちどき}太鼓（長野市）と信州上田真田陣太鼓保存会（上田市）の皆さんに勇壮な太鼓を熱演いただきました。



中島恵理副知事挨拶



勝関



真田勝関太鼓



信州上田真田陣太鼓保存会

◆1ヶ月前記念植樹

平成28年4月21日(木)、第67回全国植樹祭の県民植樹が5月21日(土)から開催されることを記念して、苗木のホームステイに参加した障がい者団体等の皆さんが長野市若穂中央公園で記念植樹を行いました。



記念植樹



記念植樹



植樹されたニシキギ



参加者記念撮影

◆植樹会場



植樹会場／上田市



植樹会場／伊那市



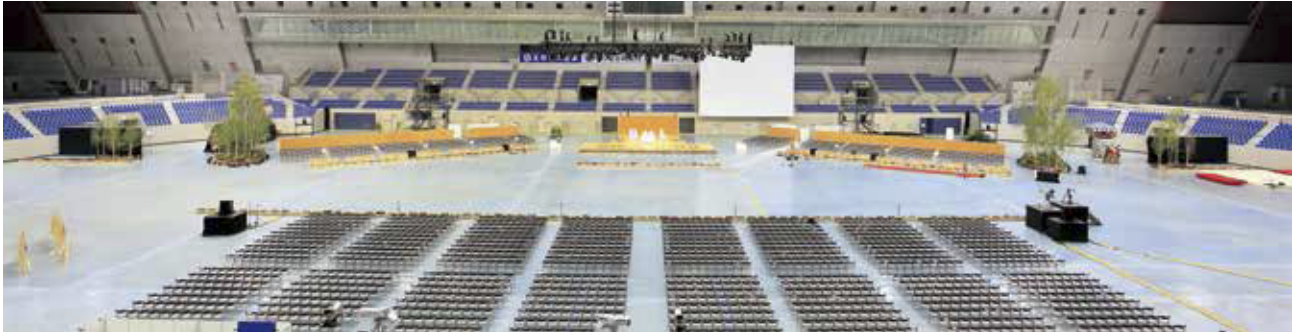
植樹会場／松本市



植樹会場／長野市

◆会場整備

式典会場は、長野県を代表する木材を使うことで県内の森林を表現するとともに、県木のシラカバや、生産量日本一のトルコギキョウを主に用い、長野県らしさを醸し出しました。



式典会場



御座所（背壁：カラマツ、床：アカマツ、お手植え箱：スギ、お手播き箱：木曽ヒノキ・カラマツ）



御机、御椅子



お手播き箱



お手植え箱



記念写真撮影ボード



応援メッセージのぼり旗と木製プランターカバー



協賛者紹介ボード



苗木のスクールステイ紹介ボード